

## デザインの研究・実践・教育の循環の試みとして

美術教育・千代田憲子

### 1. 授業の概要

本授業は，美術教育専攻の教科内容に関する科目として1年次前期に実施している。今期の受講者数は2名で，デザイン専攻生ではない。

〈授業の目的〉

資料と調査を通して，現代のデザインを取り巻く状況を理解することを目的とする。

〈到達目標〉

デザインに関する諸問題について，調査・分析を通して考察する。まとめの作業として編集デザインを行う。

〈スケジュール〉

(第1回-第5回)

提示された資料を読み解き問題点を把握する。

(第6回-第7回)

参考事例により，テーマと編集デザインの関連性を考える。これまでの資料や参考事例から，各自のテーマを検討した後，調査の目的と方法を検討する。調査の準備を細部にわたって行う。

(第8回-第10回)

各自の調査を行い，経過の検討を重ねて結果の分析を行って，考察する。

(第11回-第13回)

編集デザインによるまとめの作業を行う。

(第14回-第15回)

合評

〈授業の工夫〉

2年次へのステップの一環としての，研究・制作のための調査であり，前半の資料のまとめにおいても，編集デザインのポイントに留意する。

現代のデザインを取り巻く状況に関する資料としては，「デザインと法律・制度」(デザイン事典/日本デザイン学会編集)より，景観や伝統文化，デザイン行政・振興などを取り上げて，新たな視野を持つように努めた。

デザインの研究・実践・教育の循環を試みるために，また，高いモチベーションを持続するためにも，各自の経験を活かし，興味関心のある分野から展開したテーマ設定とした。

提出物は，活用できる成果物となることも考慮して，テーマに適するプレゼンテーション方法としての柔軟性や自由度を持たせ，編集形態の制限をしない。

### 2. アンケート結果

① 今期の取組み(資料要約と意見交換)に対する感想を述べてください。

・景観に関する情報を整理したり，調べたりする取組みはとても勉強になりました。まとめ方，発表の仕方に戸惑いましたが，他の人のまとめを見たり発表を聞いたりしながらそれを役立てるように心がけました。意見交換についてはなかなか活発にはできなかったので来期改善したいと思います。景観の問題については学校現場でも取り上げられる(取り上げたい)テーマだと思いました。

・資料要約ではトピックに対応した資料などをインターネットなどで探していましたが，松山市内で関連する具体例を探すというものでも良かったのではないかと思います。手間はよりかかるようになりすし，対応した具体例を見つけられないこともあったりと課題はありますが，逆に「なぜ松山(愛媛)に無いのか」ということを考えるのも理解に繋がると思います。

② 今期の取組み(「まなざし」を用いた検討)に対する感想を述べてください。

・写真の撮影者の意図や，編集の意図を学ぶことはとても興味深かったです。PCの活用能力が弱いのはとても不利・不便だなと思いました。この取組みも学校現場で取り上げられると良いと思います。

・前半では，景観に関する条例や規制などを中心に資料の要約に取り組みましたが，「まなざし」で取り上げられた景観には，「こうしなければ良い環境が維持できない」と言う規制よりも，「こうしたら，心地良い空間ができる」という条例などに関係のない個々の心がけによるものが多かったように思ったので，少し前半とのつながりが薄くなってしまったように感じました。

③ 今期の取組み(「まなざし」に発した表現と構成：編集デザイン)に対する感想を述べてください。

・前半の景観についての資料要約と意見交換との関連がなかなか自分の中ではっきり掴めなかったので、主題設定が難しかったです。また、PCの活用技術は欠かせないものになるのだなあと感じました。

・写真を中心にした作品という形でまとめましたが、かなり自分の趣向によった内容になったので、楽しんで作れました。景観の部分があまり内容に入ってこなかったのがこれで良かったのだろうか?ということを感じました。

④ この授業に対する意見(良かったところ)があれば、自由に記述してください。

・編集デザインの実技の際に意見交換や助言の機会があって、とても役に立ちました。景観についての授業では、松山市内の例を出して頂きながら勉強できたので視野が広がりましたし、教材として発展させられることも多くあって、面白かったです。

・後半の作品制作は自分のペースでやりたいことができたので、限られた時間の中でもそれなりに出来たと思います。

⑤ この授業に対する意見(改善点)があれば、自由に記述してください。

・特にありません。ありがとうございました。

⑥ あなたはこの授業でどのようなことを得ましたか。

・資料の読み方、まとめ方、発表の仕方  
・編集の視点  
・景観デザインについての知識  
・心地良い空間というものは、実際にそこにいなくても写真で感じることでできるものであり、外国のものであっても理解できる普遍的な要素が有り得るのだ、と理解できた。

### 3. 結果のまとめ

アンケート結果からは、落ち着いた客観的な振り返りが読み取れる。

① 今期の取組み(資料要約と意見交換)では、景観や伝統文化、デザイン行政・振興などを取り上げたが、②(「まなざし」を用いた検討)③(「まなざし」に発した表現と構成：編集デザイン)が、景観に関連した展開であったため、結果的には、景観に関する印象が強く残ったものと思われる。

前半で、規制や機能的なことを伝え、後半では、その対極としての側面でもある、個人の意識や情緒的なことをセットとして伝えたことは、理解されたと判断していたが、意図をもう少し確認する必要があったようだ。

編集デザインに関しては、控えめな自己評価もま

じているが、目的に応じた調査に十分な時間をかけて、完成度を高めるための工夫に努めたものであった。

テーマを持って実際に市内を歩くことで、見慣れたものへの新たな発見と視野が生じたと思われる。

### 4. 授業の達成度

各人の問題意識に基づいた展開は、羽根を伸ばせる取組みでもあり、限られた時間の使い方としても有効であったといえるのではないだろうか。

編集デザインは、写真エッセイ集とカードゲームという形態のまとめになったが、枠組みから考えることが充分できていた。楽しみを実感しながら意識を深めて、教育現場などで具体的に活用できる成果を残すという方法は、デザインに取り組む姿勢にも繋がるという点で、実りのあるものになったと思われる。

後期には、プレゼンテーションに関する技術的なチャレンジを含めて、より実践的な取組みが期待できるものとなった。

なお、両名が引き続き受講したデザイン研究 II においては、実際に深化した取組みを行った。

### 5. 次年度への課題

院生に対して、学部生とは異なる、所謂「大人の解釈」に頼りすぎた感があったかもしれない。次年度は、授業の流れや関連性をもう少しきめ細かに提示する必要がある。

また、提案したデザイン制作物の検証の機会を積極的に設定したい。